



人気講師でもある児島氏の講義には大勢の学生が出席。医療にまつわる雑談を交えながらわかりやすく説明することで、学ぶことの楽しさも伝えていく。

児島氏が予備校講師になったのは、大学卒業後にさかのぼる。薬剤師国家試験に落ち、薬局に勤めながら予備校の日曜講座を受けたのがきっかけだ。翌年には見事、国家試験に合格し、そのまま大手予備校に就職。カリスマ講師として活躍し、3年目には教室長、その後全国5教室の統括となり、講師を育成する立場にまで上りつめた。

しかし、「教育は人なり」という信念のもと、退職を決意。退職を同僚に伝えたとき、20名もの講師が自分たちも辞めると言い出したのだ。驚いた児島氏は彼らを引きとめたが、その思いは強かった。同時に大学から講義依頼が相次いだことや試験に合格しなかった学生から学校を設立してほしいといわれ、児島氏は起業する決意を固める。

それから起業するまでわずか1ヵ月。2007年5月に会社を設立し、7月に教室を開設、2ヶ月で参考書を完成させ、9月から国試受験対策コースをスタートさせた。開校当初の学生数は160名。とくに宣伝活動はしなかったが、口コミだけで学生が

る児島氏。これまでも持ち前のプラス思考で問題解決に取り組み、数々の成果を上げてきた。「自分の利益のためではなく、他の人の利益のために尽力する」のが信条だ。

カリスマ講師から経営者に。周囲からの後押しで学校を新設

児島氏が予備校講師になったのは、大学卒業後にさかのぼる。薬剤師国家試験に落ち、薬局に勤めながら予備校の日曜講座を受けたのがきっかけだ。翌年には見事、国家試験に合格し、そのまま大手予備校に就職。カリスマ講師として活躍し、3年目には教室長、その後全国5教室の統括となり、講師を育成する立場にまで上りつめた。

しかし、「教育は人なり」という信念のもと、退職を決意。退職を同僚に伝えたとき、20名もの講師が自分たちも辞めると言い出したのだ。驚いた児島氏は彼らを引きとめたが、その思いは強かった。同時に大学から講義依頼が相次いだことや試験に合格しなかった学生から学校を設立してほしいといわれ、児島氏は起業する決意を固める。

それから起業するまでわずか1ヵ月。2007年5月に会社を設立し、7月に教室を開設、2ヶ月で参考書を完成させ、9月から国試受験対策コースをスタートさせた。開校当初の学生数は160名。とくに宣伝活動はしなかったが、口コミだけで学生が

「うつ病の薬は効果が出るのに2週間くらいかかります。カウンセラーが薬の知識を持たないとドクターハンティングを繰り返す患者がますます増えていく。脳に作用する薬なのでできるだけ病気の進行を止めてあげたい。そんな思いから薬学の知識を持った心理カウンセラーの養成講座を立ち上げました」。

うつ病の増加を懸念し、心理カウンセラー養成にも本腰

児島氏が心理カウンセラーの必要性を唱える理由は他にもある。国家試験をめざす大学生や製薬メーカーの新入社員など若い世代にもうつ病患者が広がっているからだ。大学の薬学部に合格したものの、最後の薬剤師国家試験のプレッシャーを乗り越えられず、ストレスでうつ病になる学生が増えているという。病気を抱えながら受験勉強をする学生の姿を見て、自らメンターとなって病気を治してあげたいと思い、心理カウンセラーになった。

さらに、2008年5月には「心理カウンセラーメディカルコース」を開講。単なる薬剤師ではなく、病気の初期診療を担える薬剤師の輩出を目的に、カウンセリング技術をもった薬剤師の育成にも力を入れている。

「今は、心の時代」といわれているように身体だけでなく心の病いも増えています。学校にある保健室のように、社会にも気楽に立ち寄れる保健室として心理カウンセラーのいる薬局を増やしていきたい」と、児島氏は主張する。

薬学という閉鎖的な世界に疑問を投げかけ、教育現場から風穴を開けようと果敢に挑戦す

い」と児島氏。同僚や学生から慕われ、周囲から後押しされて起業家になった人望の厚い教育者は、薬学界に新風を巻き起こそうとしている。